2008年12月11日/神戸新聞

西宮市長3選の公約　73項目　実現に330億円

　市長「実現に全力」　市幹部「景気次第」と逃げ道

　西宮市は十日、十一月の市長選で三選を果たした山田知市長の公約（七十三項目）を実現するには、概算で三百三十億円かかることを明らかにした。市が初めて試算した。山田市長は「実現に向け全力で取り組む」と答えたが、総合計画担当理事は「経済の先行きは不透明。（総合計画の実施と合わせ）財源が確保できないことも予想される」と逃げ道を残した。

　市会本会議で澁谷祐介市議（にしのみや未来）の質問に答えた。

　山田市長は先月の市長選で七十三項目のマニフェストを掲げて当選。項目は、小中学校の普通教室にエアコンを整備▽中学生までの医療費無料化▽多世代交流センターの新設-など。

　このうち市単独では事業化できない、年限を明示していない-などのケースを除き、担当課が試算した。三百三十億円のうち、国・県の補助金や借金を見込める分野を除いた四年間の市の支出は約百二十億円という。

　澁谷市議は、中学生以下の医療費無料化だけで四年間に二十億円以上必要だとし、「総額は百二十億円を超えるはず」と指摘。「公約を聖域にせず、それ以外の必要な課題にも取り組んで」とくぎを刺した。

（木村信行）